

WACATE Magazine Vol.12

✿ ご挨拶 ✿



こんにちは。WACATE-Magazine 編集部です♪
紅葉が色づいてきましたね♪
秋といえばやはり読書の秋！
WACATE 2009 冬目前とあって、みなさまも
沢山本を読まれているのではないのでしょうか？

目前に迫って参りました WACATE 2009 冬！
今回はどんな出会いがあるのかな？
今回はどんな勉強ができるのかな？
今回は、どんなスターが見られるのかな？

我々Magazine 編集部も楽しみにしています♪
実行委員も作業が大詰めを迎え、色めきたっています。
では、直前のMagazineの始まり始まり～★

✿ vol.12 のお品書き ✿

- p. 01 ご挨拶/お品書き/WACATE TOPICS
- p. 02 【特集 1】 WACATE 2009 冬 直前! テンションアゲアゲで Go!
- p. 06 【特集 2】 JaSST' 09 Kyushu Report!!
- p. 12 【特集 3】 S-Open 第33回ホットセッション参加 Report!!
- p. 15 【ShortShort】 WACATE-SS 報告書 WACATE-SS Vol. 8: かつぬま新種ワイン祭りでテ(イ)スティング
- p. 18 【コラム】 勉強会のモデレータをやってみよう! 【最終回】
- p. 20 【コラム】 Software Testing ManiaX プレゼント当選発表!
- p. 21 【リレーコラム】 ワカテにきく。
- p. 22 【トピックス】 SoftwareTestTopics
- p. 23 【告知】 WACATE ShortShort vol.9 WACATE 2009 冬 前夜祭
- p. 24 【告知】 WACATE ShortShort vol.10 WACATE 2009 冬 後夜祭
- p. 25 【連載】 池田暁の「ミュージカルに恋して」
- p. 26 【リレーコラム】 WACATE-Blog 出張所
- p. 27 【連載】 源太郎の「開運ソフトウェアテスト占い」
- p. 28 お知らせ/編集後記/おくづけ

✿ WACATE TOPICS ✿

- [News] WACATE-Magazine が JaSST' 09 Kyushu および JaSST' 10 Tokyo のメディアスポンサーになりました!
- [News] WACATE 2009 冬前夜祭・後夜祭参加者募集中! 締め切り間近!

WACATE 2009 Winter

直前!!

テンション★アゲアゲでGo!!

いよいよ直前に迫ってまいりました!!!!!!

「WACATE 2009 冬」

参加を予定されている皆様、予習は進んでいますでしょうか？今回も手広いテーマをちょこちょこというスタンスでお送りする WACATE 2009 冬。全種類勉強するのは難しいとして、どれかに絞って勉強している方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

そんな皆様のために今回はセッション担当者からのメッセージをお送りいたします。

担当者からのメッセージによって「おっ、コレは面白そう」とか「コッチの方も面白そう」と感じたら、それらの予習の優先順位を上げたりなど、色々考えられるかな～？と思います。

ドキドキしているのは参加者の皆様だけではなく、私たち実行委員もドキドキしています！

それでは各セッション担当者、行ってみよー！

■線マニアックス

セッション担当：村上くにお

ソフトウェアテストにかかわるさまざまな「線」を紹介させていただきます。

業務で使われている「線」は、たくさんの情報を読み取るための「基礎」です。

日頃見慣れている「線」をもう一度見直してみましよう♪

今まで気が付かなかったことが、見えてくるかもしれません♪

それはまるで・・・

今まで一緒にいるのが当たり前で存在を忘れてしまいがちな、幼馴染のように・・・

改めて意識してみると、その魅力に気が付くかもしれません♪

(なぜその線があるのか？その効果？その重要性？)
(フラグがオンになるかも？！)

皆さんで「線」の基礎について、考えて見ましよう！！

■技法セッション

セッション担当：奥村 健二、加文字 諭、
加瀬 正樹

テスト技法でも基礎となる「同値分割」「境界値分析」について、例題を使って解説を行い、皆さんには簡単な演習問題に挑戦していただきます。どちらも基礎となるテスト技法・考え方ですので、さまざまなソフトウェアテスト関連書籍やウェブサイトにも情報があります。「基礎」とは他のテスト技法・考え方を成立させる大元になるところ、言い換えれば「土台」です。みなさんは、基礎であるがゆえにおろそかにしてませんか？なんとなく使っていませんか？

・奥村からのメッセージ

複数の条件を洗い出し、テストデータを選ぶ。自分なりに考えがあるけど説明できないことはありませんか？選択過程を説明できれば、迷いが減ります。迷いが減れば確信になります。どのような過程で選んでいくか？というテスト設計の基礎をこのセッションで皆さんと一緒に勉強して行きたいと思います。

・加文字からのメッセージ

おそらく皆さん使ったことがある技法「同値分割」「境界値分析」ですが、書籍等の文字的な意味や説明を軽く読んで、なんとなく使ってマスターしたと思いませんか？勉強すればするほどこの技法の深さや価値、難しさと面白さが見えてきます。今回のセッションはそのための第1歩です。僕達も含めて、みんなと一緒に楽しく学びましよう！

・加瀬からのメッセージ

同値分割の「うまさ」がそのあとのテスト設計・テスト実装にも大きく影響してきます。モデレータとして皆さんに多くのことを得てもらいたいと同時に、演習問題を通じて僕自身も皆さんからいろいろ学ぼうと思います！

・最後に

セッションは60分という短い時間です。皆さんには、ぜひとも職場に戻ってからご自身に「足りないな」と感じた部分の勉強の継続を、さらには同僚や後輩にも動機づけをしていただければと願っています。

■コミュニケーション

セッション担当：河野 哲也、小山 竜治

WACATE-Magazine をご覧の皆様、コミュニケーション意識していますか？

意識的にしてる方も、特に気にしていない方もいらっしゃると思います。

得意と思っている方、あるいは自信が無いと思っている方、コミュニケーションなんかより技術だろ、と思っている方もいらっしゃるかも知れませんね。

コヤマンは意識していますが正直自信がありません。なので、あえてこのテーマを選びました。

今回は皆さんにコミュニケーションについて意識しつつ、軽いゲーム感覚？でセッションできるようにネタを河野さんと相談しながら仕込んできました^^ 皆様が楽しみながらいろいろ考えていければ幸いです。

事前の予習としては、参考書籍である「ロジカルコミュニケーション」を読んでいただければ良いかと思えます。その次に同じく参考書籍の「エンジニアのための文章術再入門講座」でしょうか。こちらは大変わかりやすい本です。

あとは何より、職場でのコミュニケーションを今から意識していただくことでしょうか。

セッションのときに振り返れることができ、より有意義かと思えます。

技術技術と追い求めても、伝えることはコミュニケーションに支えられます。

上手く出来れば正に鬼に金棒！

得意な方も自信の無い方も、カンケーねーと思っている方も。

皆さんで今一度見直ししてみませんか？

■ディナーセッション

セッション担当：池田 暁、スター☆やまさき

ディナーセッション、それは WACATE における一大エンターテインメント。単に夕食をとるだけではもったいないということで、毎回新たな試みに挑戦している本セッションですが、果たして今回はどのようなネタが炸裂するのか…!?

どうも、「微妙に痛い子」ことやまさきです。回を追うごとに、いろいろと大変なことになっています。特に私の心が痛くなる方向で(;´Д`) 前回はとうとうアフロ姿で皆さんのお目汚しをしたわけですが、さてさて、今回はいったいどうなることやら…

私のことはさておくとしても、多くの方がこのディナーセッションを楽しみにして頂いているようで、本当にありがたい限りです。常連さんには言わずもがななのですが、ここでは初参加者の皆様に少しだけセッションの内容をご紹介しますと思います。

●豪華な料理とお酒!!

ディナーセッションでは、一日の疲れを癒すべく、豪華なお料理とお酒が堪能できます。でも、この後の分科会と翌朝のためにも、飲み過ぎにはご注意ください…って、おまえが言うなと天の声が聞こえる…。

●一番の目玉!? 宴会でもセッション!!

ディナーセッションの由来はまさにこれ…なのか? 皆様に楽しんで頂けるよう、毎回いろいろなネタを準備しています。もしかしたら、アフロな変な人が出てくるとか出ないとか? ああ、勘弁してください…。

●最後はプレゼント大抽選会!!

そして、最後にはプレゼント大抽選会があります。いろいろなソフトウェアテストや品質に関する書籍などを抽選にてプレゼントさせていただきます。当選した方には、もれなくレポートの提出が付いてきます(嘘です)。

おいしい料理にお酒、余興のセッションに、最後はプレゼント大抽選会と盛りだくさん! 是非参加者の皆様には、思う存分楽しんで頂きますと幸いです。

■メトリクスセッション

セッション担当：原 佑貴子

メトリクスのセッションを担当します原です。WACATE2009 冬では 2 日目の午前の時間を使い、メトリクスの Why を考えてみましょう。

いきなり Why を考えろと言われても、ちょっと漠然としていますよね。

日頃の仕事の中で、皆さんはどんなこと、どんなものを測っているでしょうか。え? 何も測っていない? 自分の周りをよくよく見直してみてください。例えば、誰かに報告する、もしくは報告を受けるときに何かしら定量的なデータが入っていませんか?

「テストケースが全部で〇〇件のうち、△△件完了しました。」とか、「現時点での欠陥密度は〇〇ですが、目標は△△」とか。

こういったメトリクスって、どうして測っているのでしょうか? 測定することによって Happy になるのは誰でしょうね?

今回の WACATE のテーマは基礎ということで、これまでに上記のようなことを考えたことのある人は思い出す意味で、「そういえば考えたことないなあ〜」という人は一緒に考えてみましょう!

予習のポイントとしては、ソフトウェア・テストプレス Vol.9 の特集に測定に関する記事が載っています。著者は初日にセッション「プレゼンテーションのプレゼンテーション」を話す細川さん。何を隠そう私の上司なのですが(笑)。

その特集記事に目を通し、身の回りにどんなメトリクスがあるか、一考してから参加して頂けると嬉しいですよ。

とはいえ、あまり気張らずに参加してくださいね。このセッションでは、演習の1つに妄想してもらおう問題も用意しています。

ですので、格式ばるのではなく、柔軟に意見を出し合えるように、頭を柔らかくしてからセッションに臨みましょう♪

セッションで柔らかくするのではなく、柔らかくしてからセッションに、というのが重要ですヨ。

では、皆さんにお会いするのを楽しみにしています。

■情報探索セッション

セッション担当：川西 俊之

こんにちは！「情報探索キホンのキ」を担当させていただきます、川西です。WACATE2009 冬にお申し込みいただいた皆様、本当にありがとうございます。

「情報探索キホンのキ」では、ソフトウェアテストに限らず、知的生産の基本である「情報探索」について考えていこうと思います。「情報探索」というと、「現代の嵐のような情報の渦の中から、情報を如何に峻別するか……」というような難しいことが語られがちです。ただ今回は、普段、本を読んだり調べ物をしたりする時の、「ちょっとした工夫」「ちょっとした心がけ」に焦点を当てていきます。

もちろん、既に皆さんお一人お一人が様々、日々工夫をしていることと思います。ただ、せっかくなので、一歩振り返ってみましょう。ワンステップ上のワカテエンジニアを目指していくために、あらためて「情報探索」を見直してみる。そんなセッションに出来ればなーと考えています。

チリも積もれば山となる。ということで、日々の「情報探索」が「ちょっとした工夫」で楽しく価値的になれば、ワカテのレベルアップがどんどん加速していくはずですよ！

このセッションは、参考文献を読むといった事前の自習は必要ありません。その代わりといっは何ですが、**普段、皆さんが本を読んだり、情報を収集したりするにあたって工夫している事を考えておいてくださると嬉しいです！**当日、皆さんで情報共有できると素敵ですね。

皆さんと、様々、情報共有できる事を楽しみにしています！それでは、当日もよろしくお願ひします。

■グループディスカッション

セッション担当：山崎 崇

皆様こんにちは。グループディスカッション(GD)を担当します山崎と申します。今回は、WACATE-Magazineの誌面をお借りして、GDセッションについてお話しさせていただきます。少しの間だけお付き合いください。

さて本題ですが、今回のGDのテーマは「**技術者としての心・態度・習慣**」であり、このテーマに決まった理由は、清水さんの著書である「わがSE人生に一片の悔いなし(技評SE新書)」を読んだことによります。その書籍の第3章『習慣が人生を変える』には、次の言葉が引用されています。

心が変われば 態度が変わる
態度が変われば 習慣が変わる
習慣が変われば 人格が変わる
人格が変われば 人生が変わる

フランスの哲学者であるアミエルの日記の一節ですが、この言葉が、GDセッションでやろうと考えていたことを端的に表してくれました。

WACATE2009 冬のテーマである基礎には「礎」という字が入っています。礎とは、建物の土台となる石の事。技術者としての礎は何であるかと考えたとき、それは技術そのものではなく、**もっと根源的な《態度》や《姿勢》や《考え方》といったものでは無かろうか**と思いました。

しっかりとした礎があってこそ、技術者人生というきっちりとした家を建てることのできるのではないのでしょうか。逆に、礎がしっかりしていなければ、家は直ぐに倒壊してしまうのではないのでしょうか。

そんな想いから今回のGDでは、**《心》《態度》《習慣》《人格》《人生》から最初の三段階について皆さんと話合ってみたいと思います。**『習慣が人生を変える』のです。ならば、その習慣についてもっと掘り下げて考えてみませんか？その後、クロージングセッションで清水さんの講演を聴けば、皆さんにとって大切な何かが見つかるかと信じています。

それでは、皆様、当日お会いできるのを楽しみにしております。

実行委員各位が盛りだくさんの内容を用意して待っています。この記事を書きながらテンションが上がって参りました！参加者として参加したい！

各セッション担当からのアツいメッセージはいかがでしたか？^^

実行委員もドキドキしながら準備を進めています！参加される皆様も、初めっから全開で楽しんでいってくださいね！

そしてなんと！クロージングセッション担当のシステムクリエイツ清水吉男様より”熱い”メッセージをいただきました！

…刮目して見よ！

■クロージングセッション

システムクリエイツ：清水吉男

人生や仕事に迷い、悩むことはありませんか？

ありますよね。

だからこそ「WACATE」の仲間に入って、このWebマガジンも見ているのですよね。そこから、迷いを解くヒントや悩みから脱却する方法を得ようとしているのでしょうか。

人は、自分の仕事の役割が変わったときや、求められる仕事のレベルが変わったときに、悩み迷います。何かの不足を感じているのですよね。

また仕事に疲れたときに、何のために今の仕事をやっているのだろうか、と悩みますね。でも、どうして仕事に疲れるのでしょうか。

技術的に何が足りないのでしょうか？

それとも対人関係で疲れるのでしょうか？

それって何れも技術で対応できることですよ。

迷いや悩みは、自分の「殻」を破るトリガーのようなものです。新しい場面において、それまでの「自分」では対応できない状況に接しているから迷いや悩みが生じるのです（これ以外の原因もあります）。多くの場合、「なんとかしなくちゃ」「どうすれば良いのだろう」という内からの声なのです。

技術に起因する迷いや悩みであれば、不足している技術を補ってやれば解決するかもしれません。例えば、マルチCPU向けのアーキテクチャを設計する技術、必要なテストを漏らすことなくテスト工数を1/2にするテスト技術、30人のメンバーで構成するプロジェクトをマネジメントする技術、さらには「仕事の仕方」という技術。これらの技術が手に入れば、目の前の悩みや迷いは解消するのかもしれません。

迷いや悩みが技術の不足が原因とわかれば、時間を作って習得すればよいのです。でも、日常の忙しさの中でそんな時間をどうやって作るのでしょうか。一つの方法は、朝起きる時間を早める方法ですが、そうすると、「なぜ、そこまでやらなければならないのだろう」という新しい迷いや悩みが湧いてきます。さあ、今度はいわゆる「技術」では解決しませんよ。

この場面における「解」をイメージできますか？

もちろん、「技術解」ではないので「正解」のようなものはありません。この時の「解」は、「納得の解」であり一歩踏み出すための「背中を押す解」であり、迷いの「霧を晴らす解」です。

この解は技術本には書いていません。でも、ここで「解」

を出すのと出さないのでは、このあとの生き方、日々の過ごし方が大きく違ってきます。それだけではありません。“見えるもの”が変わってくるのです。

「解」は正解である必要はありません。いちど「解」の出し方を知ってしまえば、「解」はいくらでも修正できます。でも目の前の迷いや悩みにいつまでも解を見出せずにいると、時間が経つ中でその状態に慣れてしまい、いつしかそのことが気にならなくなります。でも集中力を欠きますので、結局は仕事のほうも成果が出ません。それだけではありません。一度「解」を出すことをパスしたことで、次回もパスする術(?)を身につけてしまったかもしれません。

迷いや悩みは自分の「殻」を破るためのトリガーでしたよね。「解」を出していないということは、自分の「殻」を破っていないということでもあるのですから、技術面も精神面もそこで成長は止まっているということです。迷いや悩みは、それまでの人生観、職業観を脱皮するチャンスでもあるのです。そのほうが、世の中に貢献する機会がより多く手に入るのです。

12月のWACATE冬合宿における私の話が、皆さんのヒントになってくれることを願っています。それでは三浦でお会いできることを楽しみにしています。

…めちゃくちゃアツい！実行委員である我々も、今から当日が楽しみです！さあ皆さん、お目当てのセッションは決まりましたか！？新しく興味が湧いたセッションはありましたか？

実行委員もラストスパートをします！

当日をお楽しみに！

当日は、一緒に沢山勉強しましょー！

(WACATE-Magazine 編集部)

JaSST '09 Kyushu Report

祝★JaSST '09
全地域レポート掲載！

行っちゃいました★北九州！！

JaSST 九州は前々回から行きたくても行けないという悔しさがあっただけに、今年こそは何が何でも行きたいぞっ〇>〇<〇とっていました。

北九州行きの飛行機で前日入り・・・といっても小倉に着いた時点で 23 時を過ぎていました；そして帰りも JaSST 終了 2 時間後には小倉を出発。本当に行って帰ってきた状態で、名物ものもあまり食せず(焼うどんだけでも食べたかった・・・;) それでも「おなかいっぱい、ゴチソウサマでした☆」という気分になれた 2 日間でした。

それではレポートってみよー☆

(いつもながらまとめかたが下手で申し訳ないと思いつつ・・・^^;) ;)

■チュートリアル

ムリ・ムダ・ムラのないテストを考えるための事前知識について -JaSST'09 Kyushu の歩き方-
片山 徹郎 氏

今回の JaSST'09Kyushu のテーマは「**ムリ・ムダ・ムラのないテストを考えよう。**」

日頃小言のように言われている「ムリ・ムダ・ムラ」から何かヒントを得られないか？テストではどう考えていけばよいだろうか？そういうテーマに基づき、このチュートリアルでは、各セッション聴講のための予備知識を得ることが目的。

◇テストの目的

「先人たちの言葉」をもとに解説。
テストの一般原則(7つの原則)も解説。

テストはソフトウェアの品質を測定すること
テストの最終目標は品質保証を支援すること
→**テストの目的は、プログラムの不具合を見つけること**
これを学校のテストにたとえると、その学生がちゃんと理解しているかどうかを測定することが目的。

→**理解していないところを見つけること**

◇ソフトウェア開発におけるテストにかかる費用

明らかにボトルネックがある箇所として、運用と保守を除くとダントツはテスト。テスト作業は開発におけるボトルネック！

その現実に基づきだして、以下の考えに至る。

「**テストは経験と勤では済まされない！なんとか技術を導入できないか？**」

そうしてほしい 2003 年ごろ (JaSST 開催のころ) からだんだん「テスト頑張りましょう！」という風潮になってきた。

◇テストの観点

4つの観点・・・抜けてるところは無いよね？を確認。

- ・要求ビュー
- ・仕様ビュー
- ・設計/実装ビュー
- ・バグ・ビュー

機能通りか？とお客さんの要求を満たしているか？は、分けて考えるべき。

◇テストの工程(V字モデル)

「テストレベル」と呼ばれる

「上位下位」はこのV字モデルによる(V字の上か下か)。

◇テスト作業に付きまとう問題点

バグがどれだけあるかわからない・・・
すべてを確認することは無理(時間的に)

↓

どこかで妥協するしかない！

でも「妥協」というのはネガティブなので・・・w

「**妥当**」な範囲を見つける。

「与えられた期間やる」ではなく、**限られたコストで効率よいテストを実施する。**

「より少ないテストケースで、より多くバグが見つかるようにして、テスト対象を漏れが無いように網羅」
それをテスト技法で実現するが、上記3つを**すべて満たすテスト技法は無い!!!** テスト技法には「**短所**」がある。**短所をおさえて使う**必要がある。

◇歴史から学ぶ

歴史に基づくことが多い。

「**だからこの技術があるんだ!**」

この後の(酒井さんや松尾谷さんの)講演で、歴史を学びましょう♪

◇ムリ・ムダ・ムラのないテストを目指して

キーワードの1つ1つの用語を理解しよう！

ではテストにおける「ムリ」は？

テストには「ムリ」が多い!!!

7つの原則にさえ、2つも「ムリ」がある。

そもそもムリがあるのだから、無くせない!(無くす努力は必要だけど^^;) ;)

「ムリ」を認識して、「ムリ」にどう立ち向かうかを考える。

戦略や手段から考えたり(自動化やリスクベースドテストなど)、技法から考える(同値分割やオールペアテストなど)ことで、無限なものをいかに有限にするかを考える。

◇テストの自動化

自動化の罨にかからないように！

自動テスト/手動テスト**どちらも向き不向きがある。**

各項目どちらで行うべきか、整理することが大事。

回帰テストの自動化について、最近懐疑的な意見がでていいる。→使えなくなるケースがある。

グラフィックやサウンドのテストは、自動化はムリでは？

◇リスクを考える

バグが発生してしまうなら、そのインパクトを小さくさせることが重要。「どんな壊れ方をする？」かをチェック。ex. よくある信号故障は「赤になって青にならない」であり、逆のケースが無い。=「赤にならない」ことが無いようにしている。

発生可能性と影響を掛け算するという考えはアリ。

ただ、それにかかる損失見積もりについてまだこれというものが無い。

◇機能安全規格

ヨーロッパでは安全水準が規格化→日本でもそのうち急にくるかも？

リスクベースの考え方は、酒井さんと佐藤さんの講演を聴いてね♪

◇オールペアテスト

オールペアのアルゴリズムを簡単に解説。

直交表について簡単に説明。

直交表は「直交している」ことが特徴。同じ組み合わせが同じ回数出てくる。(1回でいいじゃん^^;という意見もあり)

「テストケースを減らしたのにバグが見つかる！」と、人気沸騰していて、コピーやワープロフォントなどには適している。ただし、**制約条件(禁則)に注意！単にあり得ない組み合わせを削るといことでは済まない。**

また、使われ方に大きな偏りがあるときには「その組み合わせの頻度」を考慮すべき。

直交表については2日目午後の演習で学ぼう！！

◇テストにおける「ムダ」

「テストはいくらやってもやり過ぎることはない」・・・なんとなく正しい気はするが、**やみくもに信じてよいのか？**

何がムダなんだろう？→考えると思いつくことが出てくる。

テストケースの重複(実施組織別と同じことをして、テストレベルごとに同じことをしている)、「そのテストに意味があるのか？」・・・仕様が定まっていないのに？プロトタイプなのに？

すべてムダにはならないが、**ムダを意識することは大事。**

段取り「使いまわせるもの、使いまわせないもの」を考慮。

ムダについて、技法から考えることは必要ないかも(そもそも「ムダ排除をするための技法」と言える面があるのでは?)

戦略や手段から考えるほうがよいのでは。

◇テスト計画

効率なテスト実施のためには、プロセスをちゃんと考えて定義しましょう！

IEEE829のテストプランテンプレート

・・・全部は無理でしょ？**使えるものだけ使う。「ウチ流のテストプランはあるよ」**が言えることが大事。

◇テスト対策をしよう！

学生だってテスト対策をする。

無防備でぶつかって駄目出しされても・・・^^;

ちゃんと勉強しよう。

テストをいかに簡単にするか？(テスト容易性)

→ちゃんと整理しよう！=テストにかかる負荷を無くしましょう。

◇テスト設計の前倒し

設計段階でわかれば、見直しができる。

テスト設計もつくりこみの段階で実施。

◇プロダクトライン開発

大量生産で個別ニーズを捨てている；

そうはいつても魅力的な特徴(フィーチャー)が無いと売れない・・・

→共通する部分を「プラットフォーム」として、個々で異なる部分を部品として結合する。

詳しくは酒井さんの講演を聴こう♪

◇抽象化や共通化

ソフトウェア開発の抽象化の話。オブジェクト指向、ドメイン指向(プロダクトライン開発など)、モデルベース開発(UMLなど利用)。

自動車ソフトウェアを部品化し共通化する取り組みがAUTOSAR。

・・・ここらへんはすでに時間切れで解説があまりなく・・・

詳しくは佐藤さんの話を聴こう♪

◇ムダに立ち向かう考え方

無駄なものは周りにいくらでもある。

ムダに気づく。解決策を考える。それが重要。

→観察力、好奇心→コミュニケーション(となりは何をやっているんだろう?!)

壁を取り除く努力。

◇テストにおける「ムラ」

ムリとムダがあるならムラがあって仕方が無い。

根拠のあるムラなら許されるのでは？

メトリクスを「うまく」使う。メトリクスを目標とするのはよいが、目的になってはいけない
詳しくは吉澤さんの話を聴こう♪

◇網羅するにしても・・・

何を網羅するの？→答えを出すためテスト分析が重要。
どんなテスト、観点が必要なのか？

◇不具合分析

ムラの話の中に入ってしまったけど・・・ムラじゃなくムダでした^^；と訂正w

「また出た！このバグ！」

また出ること自体ムダ(製造業ではありえない!!)

◇「ムリ・ムダ・ムラ」を見直すために

よりよくしたいという気持ち「改善」

どうしてやる必要があるのか？

それをやると何が嬉しいのか？

・・・を、普段から自問自答してみる。

→実施して、振り返りをする。

そもそものあるべき姿を描く

□セッション感想

冒頭に「ソフトウェアのバグがアメリカに年間いくらの損害を与えているか？」の問題がだされましたが、私は3兆円くらいかなあ？と思っていました。正解は2002年6月の時点で約5.5兆円というレポートがでているそうで・・・現在はもっと高額なのでしょう？

ムリとは？ムダとは？ムラとは？それぞれをちゃんと意識し考える、心がけることが大事であることがとても伝わりました。

そしてチュートリアルの中で「この先の話はコチラのセッションで!!」と各セッションをナビゲートしていくところがうまい！と思いました。

■JaSST/PLWS 共同基調講演

商品価値を高めるコア資産中心の品質向上技術—メディカルデバイスソフトウェア開発の世界で最新の開発方法論—

酒井 由夫 氏

医療機器ソフトウェアのノウハウが、ソフトウェア開発に役立つ理由として、医療機器ドメインのノウハウは、事故が多く、それを改善する仕組みが熟成されてきている。事例として、公開されている医療機器ソフトウェア障害事例を紹介：放射線治療器 Therac-25(オペレータ入力ミスを途中で気づき訂正したのに訂正が有効にならなかった)

あとから仕様変更したことで致命的な問題が起きる。

部品単体の信頼性が全体の安全性につながるとは限らない。個々のソフトウェアがきちんとできていてもそれではよいわけではない。

いくつかの出来事が複雑に絡み合って起きた事故が1つの原因にされるが多すぎる。

問題の大きさは規模の大きさに比例しない。小規模のソフトウェアでも重大な問題は起こる。

日本は品質を心配する意識が大きいのに、ルールや責任に対する意識があまりに小さい。

医療機器は電氣的安全性が一番大事。

またユーザビリティについてはその製品の「ユーザ」ではなく「オペレータ」が誤操作しないかどうかを考える。

◇医療機器のソフトウェアライフサイクルプロセス IEC62304

特徴として、ソフトウェア安全クラス分類がある(ABCの3段階)。安全クラスを各プロセスのアクティビティに割り当てる(そのアクティビティが必要なクラスを示す。クラスC(死亡または重症の可能性あり)ではすべて該当する。)。これは自動車の世界も方向性は同じ。(MISRA-SA)

◇再利用資産について

システムが大規模になると、外から買うシステムなどで組み合わせられる。

「コア資産」がどこなのかを考慮する。

同じ商品を長く導入し続けるなら、潜在的価値はとても重要。

電子ポット商品群で考えると→それぞれで共通するドメインがある→それがコア資産。

個々のドメインに優劣が無い場合は、個々のモジュールを自由に差し替えられること自体がコア資産。

このコア資産を「きれいにしていく」

ツールで資産分析し、可視化したうえで、「コア資産になりうるためきれいにする必要あり」と、問題点を改善していく。

変更要求がくるとすぐ直してしまうが、すぐに直しちゃダメ！というべき。変更に対する影響分析と構成管理が重要。

メディカルソフトウェアの世界からのアドバイス

「CAPAができていない組織の先行きは危うい。」

FDAのWarning Lettersというのがある。「あぶない」と判断された報告書。なんでダメなのか、を記述。監査を通じて「あぶない」と判断されたら、販売を禁止。

→われわれ(メディカル)はそれで鍛えられている。

CAPAを遂行しよう！

QC活動「何のためにやっているのか？」と、CAPAをシステマティックに行う方法、両方必要！

価値のあるものを抽出し、独立させ、他のモジュールとの結合度を下げ、コア資産の品質を高めたうえで再利用！

□セッション感想

テストケースもまた再利用されることが多くなってきた昨今、テストにおける「コア資産」を考えてみるよいかっけを与えていただきました。

■JaSST 基調講演

テスト・デバッグのトレンド、過去40年から近未来へ～テストへの期待とその変化～

松尾谷 徹 氏

◇コンピュータ出現当時のデバッグ

当時の写真が予稿集に載っていました。
当時はコード(電線)をつなげる作業がコーディング
当時デバッグには2種類あった。

- ◆作業①プログラムの設計
→作業④設計の手直し
・・・これは設計のデバッグ
- ◆作業②コーディング(電線の接続)
→作業③接続確認
・・・これは作業のデバッグ

従来の設計ライフサイクルと違い、入れ子になっている(V字)。デバッグ順序としては逆転している。

◇新人の頃の思い出

電子交換機の試験風景を覗きに行く(新人のころはまだ暇だったのでw)

班長が手を挙げると全員が一斉に電話をするというやり方で負荷をかけていたw(おお人海戦術^^;)
テストの合理化がされていない・・・

◇松尾谷さんのデバッグ遍歴

ハードウェア時代: 実に時代を感じつつも、楽しそうw
電子回路のデバッグ、技術者個人のデバッグ力養成
そして1980年代にソフトウェアに・・・

ソフトウェア製品、システムのデバッグ
ソフトウェアにも品質管理が必要であるという認識が出始めたころ。

2000年代は、「人が関わる活動のデバッグ」「技法やプロセスに対するデバッグ」

◇テストとトレンドの課題について

上位レベルのテストは、観点が「リスク」リスクベースのテスト。品質評価もリスク評価。

下位レベルのテストは、観点が「網羅」実装ベースはコード(できたもの)からテストケースをつくる+仕様ベース(設計上の内部仕様も含む)のテスト。品質評価は信頼性評価になる。

産業界では、1990年前半(仕様ベースが当たり前)と1990年後半(リスクベースが当たり前)とで主流が異なっていた。現代においては、リスクベースのテストと仕様ベースのテストが分離した。

(個々のシステムの責任と統合したときの責任とが分離)
→テストの産業が活性化。

◇下位ベースのテスト

「無則」(仕様に無いもの)を見逃してしまいがち
条件の組み合わせに対する考慮が不足
技術スキル不足の人には難しい

◇上位ベースのテスト

リスクはシステムをわからない人には特定できないのではないかな?

危ないところが本当に予測できるのだろうか?

リスクからテストケース作成できるのか?

経験不足の人には難しい。

◇近未来に向けて1

上位、下位の中間が必要ではないか。

→中間に「構成ベースのテスト」をプラスする。

インタフェースレベルの仕様は把握している

構成による問題が無いこと(テスト)と、不具合への対策(利用者損失を低減する対策)(デバッグ)を行う。

それぞれのテストに求められるもの

分析する力

技法を選択できること(選ぶ力)

選んだ技法を適切に運用できる力(テストをする人全員に展開することが必要!)

◇近未来に向けて2

試作評価としてのデバッグを再認識すべきではないかな?

=仕様を高めるテスト

V字モデルでは、上位のフィードバックが遅い、弱い。

よって、「仕様が正しい」=仕様をデバッグできない方式になっている。

現代の人は、(他人の)ソースコードのデコーディングをしない。勉強しない!

□セッション感想

これまで私が拝聴した松尾谷氏の講演はPSのお話が多かったので、今回デバッグの話を聴けて嬉しかったです。

デバッグの対象はソフトウェア(やハードウェア)に限らないという気づきを得ました。

人やプロセスにもデバッグが必要だし、実際そういう活動を無意識に行っているのだな、と。

目的意識の共有化は大事ですね。

目的意識が異なるとプロジェクトは本当にうまくいきません。。先日目の当たりにしましたorz

■招待講演1

品質、測ってますか?測りすぎていませんか?~ 品質目標の決め方と測り方~

吉澤 智美氏

2日目朝一番のセッション。初めに、昨日のおさらい?!

「ムラ」についての豆知識をお話いただきました。「村をとる」弓道用語にあるそうです。弓の作成工程で弓のかたちを整えるための「村をとる」作業が段階的に行われるそうです。

セッション内容については、JaSST'09Shikokuでも同様のお話をされているので、WACATE-Magazine Vol.8のJaSST'09Shikokuのレポートを参照ください。

相違点としては「秋なので、すいかがリンゴになった」w

・・・と、これだけではあまりに淋しいので^^;今回は5つの特徴について、前回よりもうすこし細かく書きます。

・システムプロファイル

システムにより、求められる品質は異なってくる。

人的損失、経済損失の度合いにより、4つのシステムタイプに分類していく。

・プロジェクトプロファイル

「そうはいっても自分たちの状況は・・・」という点を分析していく。

システムそのものの特性や制約、プロジェクトの特性や制約は、品質目標達成に大きな影響を及ぼすので、きちんと分析することが必要。10個の要素(ファクター)があるが、カスタマイズして構わない。マイナス面だけでなくプラス面(プロジェクト的に追い風の状態)も加味する。

・品質コントロールのための「ものさし」=品質評価指標

プロセスとプロダクトの2つの観点でシステムタイプに基づき目標値を決める。

モノをつくっている過程で品質が上下していく。それをコントロールする必要がある。

品質が指標より上であることが、必ずしも良いというわけではない(QCDのCとDを無視してやり過ぎている可能性も考慮する必要がある)。

・ST-SEISMIC Scale

「SEISMIC」が「震度」を意味する。

システムの不具合がどのくらい影響するのかをわかりやすく示してみるのに利用。

・ヒント集

5つの定性的なヒントを提供。チェック項目となっているが、いくつかはよいというものではない。「こんなヒントもあるよね」などと、いろいろ議論するネタにしてほしい。

利用の際の注意点について、

「数値を」コントロールするのではなく、「数値で」コントロールする。

SEC-Booksは、下記サイトからpdf版をダウンロードできます!!(要ユーザ登録)

<http://sec.ipa.go.jp/public/index.html>

是非活用して、声を聴かせてほしいとのこと。

■招待講演2

車載システム開発における品質向上のための取り組みと技術

佐藤 洋介 氏

車のソフトウェアは4つに分類される、など、初めに車載システムの概説。

1970年代(排ガス対策から)ソフトが導入され始める。現在においては高機能化、ネットワーク化が進んでいる。車載ソフトウェアの特徴としては、いろんな会社と連携して分担開発。分担する工程がサプライヤにより異なるので、サプライヤにまたがったコンサルが難しい。

そんな中で現状と課題として、大規模複雑化がさらに進む→いかに効率よく開発・保守を行うか、が課題となる。

この現状に対する自動車業界の取り組み: AUTOSAR
自動車メーカーやサプライヤの枠を超えて共通化、再利用の実現をはかる。

コンセプトはアンドロイドに似ている。

複雑なHWの世界とSWの世界を切り離す。SWはHWを意識

しない(仮想の)巨大なコンピュータ(VFB)の上ののるソフト(SW-C)を開発するというアプローチ

ここまでが前置き

今後のAUTOSARの周辺技術に対するお話が今日のメイン。特に**機能安全設計に関する技術**について紹介。

保守性より機能性を重視してしまう。

しかし展開車両であれば、ソフトウェアの変更のしやすさが重視される。

現状は保守性を無視した開発をしがち。差分開発のときに問題が起こる。

機能安全要求を網羅しているだろうか?→対応として、

EAST-ADL2 を利用する。

機能安全要求分析に対して ADL (Architecture Description Language) を使う。

EAST-ADL2の特徴は、

1. **AUTOSAR, ISO26262** (機能安全規格 IEC61508 をベースとした車載版機能安全)との連携
4つのレベルにわけて分析。AUTOSARは実装レベルに対応する。
2. **差分開発への対応**
要件差分の絞り込み→故障やエラーの推測
3. **V&Vへの対応**
「外の環境」を加味。対象ユーザや路面環境などテストケース、要求との対応付け。

事例を紹介。

Vehicle Level: Requirement 抽出フェーズ

Analysis Level: 論理アーキテクチャ構築

(機能のアーキテクチャのつながり)

Design Level: 物理アーキテクチャ構築(物理的なアーキテクチャ、外とのインタフェースをどうするか?など)

実装アーキテクチャはAUTOSAR。

システムの変化点を抽出し、ADL Requirement から、FMEA ワークシートを作成する。これにより、**影響(検証)範囲を機械的に絞り込める。**

□セッション感想

内容が私にとってはレベルが高いので、正しくレポートできているかギモンですorz もっと賢いみなさんからのフォロー投稿お待ち申し上げます^^;

ADL を利用し、FMEA ワークシートを作成することで「ムリ・ムダ・ムラの無い故障モード推定」を行うことができ、ムリ・ムダ・ムラの無いテストが実現できる・・・という解釈をしました。

■演習

直交表作成ツールを自作しよう

解説: 秋山 浩一 氏

演習: 安部田 章 氏・尾鷲 幸代 氏

□最初に秋山さんより講演

物置の発注を例に、要求や目的(なぜそれが必要なのか?)をきちんと伝えることの重要性を紹介。

テスト担当者の独立性が高まってきたが、それにより、どのような意思でテストケースを作成したか?を、他人に伝える必要が出てきた。

方針・戦略のフェーズで、直交表を導入する意図を示す。

テストベース(テスト内容の根拠となる情報)顧客の理解(顧客の要求を理解すること)と開発の理解(開発の状況を理解すること)、両方必要
テストベースの整理にFV表を利用し、テストの十分性を確保。

ここで、FV表のFについて、「目的機能」で整理する必要がある。機能の目的をとらえることが重要。

因子抽出についても、機能の目的を考えることで他の因子を見つけることもできる。

その因子が使われる環境やその因子のセールスポイント(売りの部分の品質確保)も考慮。

例えば下線を引く機能は、下線を引く人より下線を見る人が思慮を受ける。誰が嬉しいのか?

ラルフチャートについて

システムに対する入力に着目して組み合わせテストを実現するためのモデル表現。

作成することで、組み合わせとしては入力値だけでなく内部変数の組み合わせも必要であることが見えてくる。

直交表を用いてテスト実装することでテスト実施効率化、バグ解析効率化。

□そして演習「直交表ツールを作成しよう」

続いて、JaSST' 08Kyushuで「直交表を用いた組合せテスト項目の自動生成ツールの利用ケース分析と機能開発」というポスター発表をなさった安部田さん、尾鷲さんによる演習。

まずは「直交表とは?」の解説がありました。

そのあとで実際 Excel VBA でガシガシ入力していきました。

作成したのは、

- ① 直交表を作るツール
- ② 因子水準の割り付けツール

PCを持参していない方々が演習を楽しめるために、関数の値などを穴あき状態にしたプログラム文が記載された用紙が配布されました。

□セッション感想

前半の講演では、やみくもに直交表を導入・作成するのではなく、なぜ直交表を導入するのか?をきちんと考慮したうえで目的を意識しながら準備をしっかり行う必要性を学びました。

VBAは久しぶりで、入力で必死になって終わりましたwスタッフの方々の手厚いフォローにより、とりあえず2水

準の割り付けツールまでできました♪

^^;が、拡張ツールはお持ち帰り宿題となりました

・・・orz

■ポスター展示・発表

「修正履歴を用いたデバッグ/テスト支援システム」

塩塚 大氏、鶴林 尚靖氏

「状態遷移モデルを用いたMC/DCテスト技法」

田村 政和氏、松本 充広氏

「受入れ検査での状態遷移表適応」

石橋 匠氏

「リアルタイムOSの高信頼性検証」

長山 卓也氏、山下 映氏、内山 美佐子氏、大黒 ゆき子氏、石濱 直樹氏

「プロパティベースのテストデータの自動生成とその応用」

生田 裕樹氏、日下部 茂氏

ポスターは九州・国際テクノフェア2009会場ブースの一角(つづきで2枠分)に展示されていました。

全体的にポスターサイズが小さかったのが残念でしたが、一方で、九州・国際テクノフェア2009会場ブースを利用することで、JaSSTに参加していらっやらない方も立ち寄り見学することができるという点は素晴らしいことだと思います。

また、ポスター発表として、ライトニングトーク程度の発表も一日目の最後に行われました。

発表があったことで感じたことですが、発表資料をもとに口頭で伝えることとポスター資料のみで伝えることの違い、予稿集に載せる資料とポスターの資料の違い、そういったものを意識することがポスター展示のカギになるのではないかと。ポスター発表ならではの難しさがありますね。

■最後に、軽く2009開催JaSSTを振り返って・・・

まずは目標どおり全地域制覇できたことがとても嬉しいです。来年またできるかと言われたら正直ムリかもしれないと思っています。

各地のJaSSTは、どこが一番よいということはなく、それぞれ独特の「味」があります☆ また、いろんな地域に行ってみることでたくさんの出会いもあり、得るものは多いと思います。

全部まわるのはさすがに大変ですが、複数のJaSSTに行くことは是非オススメしたいところです。

2010年はあなたも是非コンプリートしてみたいかがでしょうか^^

書いた人:ぼんぼん

S-Open 第33回ホットセッション Report!!

エンジニアのワーク・ライフ・バランス

■はじめに

11月10日(火)、千駄ヶ谷にある日科技連本部ビルにて S-open (ソフトウェア技術者ネットワーク) 主催のホットセッション「エンジニアのワーク・ライフ・バランス」に参加してきました。今回で33回目となりますが、毎回興味深いテーマと魅力的な講演者の話を聞くことが出来、楽しみにしているセッションの一つです。今回はセッションの内容をメモを中心に紹介していきます。

■顧客満足度とライフワークバランスを共に向上させるための考え方

森川 滋之氏

◆エンジニアは営業と起業のマインドを持とう

かつて IT エンジニアの仕事に就いていたとき、営業が仕事を受注した時点で失敗を予感させる案件がいくつかあった。そのような経験を重ねる内に、失敗を無くそうと仕事をコントロールするなら上流工程の更の上、営業に出て自分の仕事を創り出す必要があると考えるようになった。

◆昔に比べて仕事の難易度が上がってきている

ビジネス上の問題を考えた場合、論理的に正解が求められるような問題は少なく、むしろ仮説と検証が必要な問題がほとんどである。また仮説と検証のサイクルそのものも短期間化、複数サイクル化し、試行錯誤を続けるエンジニアにとって負荷が高い状態になっている。

◆疲弊しないためにも「自分軸」を見つけよう

負荷が高い状態でも疲弊せずに働き続けるには「自分軸」が重要である。自分軸とは簡単に言うと自分にとっての本当の専門性のことで、自分軸を持つことで下記の事柄が可能になる。

- ・専門性で勝負できる
- ・自分にあった市場を発見して活躍できる
- ・自分と属性のあった顧客と仕事ができる

自分軸は仕事を3つのカテゴリについて考えることで明らかになってくる。

1. 誰に対して仕事をしているのか
2. どのような効用(価値)を提供しているのか
3. 自分のこだわり

特にこだわりが重要で、これが明確なら他の2点が変わっても自分の行動にぶれが少なくなる。

◆顧客軸を提案力に活かす

自分軸同様に顧客軸も存在する。顧客軸が存在しない提案では競合に勝てない。顧客軸を考える場合は以下の点に注意すること

1. 誰に対して提案するのか
例：ユーザ、顧客、上司、支持者、反対者等。
2. 提案したシステムの効用
例：導入前後での変化、利便性等。
3. 顧客は何にこだわっているか
例：納期やコスト等、システム導入で特に課題と考えている点。本当の要求。

顧客は自分の立場を考慮している提案を採用したくなるものである。また競合が複数の場合は技術力やコストで差をつけることは難しいので、差をつけやすい顧客軸が特に重要になってくる。

◆講演内容に興味のある方へ

今回講演した内容についての詳しい説明は、著書『SEのための価値ある「仕事の設計」学』に載っているようです♪

■ライフワークバランスが良い人の時間管理

要約すると管理、記録、構造化が重要になってくる

◆管理

- ・自分に合った管理方法を色々試してみる
- ・楽に管理できるようする
- ・管理に失敗しても気にしない

◆記録

- ・年四回程度、自分の行動を記録してみる
- ・15分単位で1週間記録を取り続けてみる
- ・結果を見ると自分の駄目な点とその理由がよく見えてくるので、自己管理する気が出てくる

◆構造化

・ルーチンワーク等は構造化・自動化して考えずに実行出来るようにする

例：机の横に箱を置いて、取りあえず机の上を綺麗にしたいときは机の上の物を箱の中に片付ける。箱の中の物は帰るときに整理する。

■バランスは取ろうとするから失敗する

丸山 純孝氏 (都合によりビデオ録画による講演)
自分自身はワークとライフのバランスはかなりバラバラだと考えているが、あえてその視点からワークライフバランスについての考えを述べていく。

◆バランスかマネジメントか

ワークとライフの関係をバランスで捉えるのは疑問が残る。それはバランスと言われると両者が正反対の関係のように見えてくるからである。**ワークとライフはマネジメントするものではないだろうか?** 一見安定したバランスでも、内側では激しくせめぎ合った結果均衡が取れた状態なのかもしれない。

◆ワークとライフの快適ポイント

私の場合、何かを実行する/しないの判断基準は自分にとって「快」であるかどうかを重視している。読書の場合も不快であればその時点で止めている。

自分にとってのワークとライフの快適ポイントは、普通に生活していると分かりにくい。書籍「ワークライフ“アンバランス”の仕事力」では、ワークかライフのどちらか一方に全力を注いでみると、どの程度までが快適と感じるか分かるようになると解説している。

◆仕事仲間との付き合い方

仕事は一人では出来ない。周囲のメンバーと協力して仕事を進める上で**付き合いは大事**である。例えばモトクロス等、自分にとって初めての体験でも誘いがあればやってみる。色々やってみると自分が分かるようになる。逆に自分の好き嫌いが分かっているなら誘いがあった際に説明しておく、後々のトラブル防止につながる。また初体験の出来事には過度の期待が付きものだが、必要以上に期待しすぎると感動が薄れる。期待値を上げすぎない様にし、また実際に体験する際は少しでも期待を超えるように工夫することが仲間とうまく付き合うコツである。



■エンジニアのキャリアパスとやりがいを感じる時

原田 奈美氏

◆トップクラスの人達のキャリアパス

現在仕事で各業界のトップクラスと言われる人達に対してインタビューを行っているが、インタビューを通して見えてきた傾向は、現在のキャリアに就くまで**自主的にキャリアを選択してきた人は少ないこと**。

その時の自分の仕事を夢中で進めていく内に実力が付き、仕事の質・量・選択肢が増えることで更に大きな偶然やチャンスを活かせるようになったようである。

◆モチドラク

職場ではモチベーションに影響を与えるドライバ(要素)が7つある。

- ①自己実現
- ②自己評価
- ③リーダー
- ④コミュニケーション
- ⑤プロジェクト運営体制
- ⑥業務上のストレス
- ⑦業務外のストレス

※①～⑤はモチベーションの上昇、⑥・⑦は下降に
関係がある

◆森氏によるモチドラ小話：あるトップ営業所の紹介

- ・ 所長がとにかく部下の話を良く聞く
- ・ ピラミッド型からペア型へ組織体制を変更
- ・ 運命共同体。人を切らない、潰れるときは営業所ごと
- ・ 報告書等の事務作業は所長が引き受ける
- ・ お客のニーズ等は直ちに水平展開する
- ・ 自分(所長)が嫌なことは周りにもしない
- ・ 部下の居場所を作る
- ・ 全員を巻き込む

■やりがいを感じるとき

個人の資質に技術・お客様・開発メンバーが影響してやりがいに繋がっている。

- ・ 個人の資質
好奇心・柔軟性・楽観主義など
- ・ お客様や開発メンバー
感謝の言葉などのフィードバック
- ・ 技術
新技術が既存の知識と結びついて理解できた瞬間など

■クラウド時代の心構え

クラウド時代の心が芽に関して、森氏と原田氏の講演とパネルディスカッションでの内容をまとめてみました。

◆森氏の見解

クラウド化が進展することで IT エンジニアの仕事はコンサルタントと構築系エンジニアの二つに大別されていくと思われる。コンサルタントなら上流工程の知識にセールスの能力も必要になり、構築系エンジニアなら関連技術の高度化と構築するシステムの企画力が要求される。どちらにもなりきれない中途半端な人材は別業界へ流動していくと思われる。

◆原田氏の見解

- ・システムは作る時代から使う時代へと変わっていく
- ・使う場合はより広範なシステム知識が必要になってくる
- ・作る場合もクラウドシステムの知識等、より専門的になってくる
- ・作業も垂直統合から水平分業へと変わってくる
- ・エンジニアにも作る技術から活かす知識が求められるようになる
- ・既存の経営や組織運営にどう付加価値を提供できるかが重要になってくる

◆パネルディスカッション

森氏：**多読する**。キーワードを中心に読み進める等、斜め読みと精読を使い分けられるようにする。ネット上にある最新情報の真偽を確認する場合にも本が役に立つ。本に載っている情報ならある程度信用が置けるし複数比較することで精度が上がってくる。

原田氏：**日々の変化に注意し、備えておく**。最新情報に詳しい人に聞くのも良い方法。コミュニティの活用をおすすめする。ディスカッションすることで自分以外の多様性に気付く事が出来る。また柔軟に自分の意見をブラッシュアップしていけるようになる。

森氏：社内でコミュニティを立ち上げた時に工夫したのは、参加する際のハードルを低くしたこと。まず集める。主催者が参加者を引っ張っていくと本人の負担が増えてしまうので、参加者各自に役割分担してもらう。また山手線各駅で開催など、イベント性や目標があると人が集まりやすくなる。

■ワークライフバランスを取ることは可能か？

原田氏：小耳に挟んだ話ですが、海外ではトライアスロンが趣味の人は土日以外にも練習時間を確保する必要があるため、ワークライフバランスが取れている人と判断されるそうです。

森氏：身の周りの例だとかつて SE 志望のエンジニアがマーケティング部門に配属となり不満を募らせる日々を送っていたそうですが、ある日自分が売りたいと思える商品に巡り会ってからはマーケティングの面白さに目覚め、いまでは喜々としてコンサルティング業を営んでいます。バランスは無理に取らなくても、偶然のチャンスを活かして自分を見い出せば良い結果が付いてくるようです。

■ホットセッションを終えて

私のモチベーションの素は何だろうかと考えてみると、職場では仕事の成果と感謝の言葉、プライベートでは釣りと仲間と食べる釣魚料理でしょうか。自分でモチベーションをコントロールできる範囲を広げていくことが、充実した生活を送る上でとても重要なのだと感じさせるセッションでした。

書いた人：おたべ



WACATE ShortShort ~vol.8~ 報告書

かつぬま新酒ワイン祭りでテスティング

言いだしっぺ ノンベい永田



理想の朝であった。空気は冷たいが、さわやか。空は青く、イメージした通りのいわゆる秋晴れに恵まれた。現地“ぶどうの丘噴水広場”に着いたのは朝9時ごろ。すでに人が集まっており、よい場所にはシートや折り畳みのリクライニングチェアが並べられていた。中には鍋を用意しているところもある。いわゆる花見状態である。言いだしっぺであるが、私もこのワイン祭りは初めてである。とにかく場所を確保。日蔭ではあるが、噴水の脇に縄張りを張る。ちょうどワイン樽がテーブルとして使われている場所に陣取ったため、もうトイレにも行くことができない。ひたすら皆を待つことにする。

初めにケータイが入ったのは、酒にトラウマを持つ副委員長だった（以降サケトラの副委員長）。まずは、参加のためのワイングラスとおつまみを購入する列に並んでもらう。私の分も頼んだ。列はもう

広場を超えて下の階段まで延びていた。続いて到着の連絡が入った。WACATE で参加者を待つスタッフの気持ちがわかる。杉田さんも10時に到着。11時ごろには全員がそろった。参加者は表2の9名であった

10時に受け付け開始。10時30分にテスティングが始まった。サケトラの副委員長がグラスとおつまみ、そしてワインリスト(表1)を持ってきてくれた。

サケトラの副委員長がまず第一声、“こんなに飲めない”。27種類あった。うち1種類は残念ながら出荷移動停止で間に合わなかった。確かに、全網羅すれば、1本を超える量になる。十分リスク分析をしなければならない。”だからテスティング計画が重要ですね。”と加文字先生。そう、ここで、“おつまみとの組み合わせテスト”という余裕は体力的に無謀である。タクシーの運ちゃんに勝手に話していたのであるが、毎年ここでやはりその無謀なことをやってしまい、酔いつぶれてしまうやからがいののである。それが、一番危ないのが、女性だけのグループだそう。酔いつぶれたからといって下手に介抱もできず手を焼いているそうである。今年も泊まりがけでこのイベントに来ている人が大勢いるそうである。我々はそのようなわけにはいかない。いかに、自分の体力と肝臓機能の能力という限られたリソースで、この秋晴れの野外でワインを最大限に楽しむかが今回のWACATE-SSに課せられたミッションである。さらにテスティング計画で考慮

2009年 新酒ワインリスト 2009・11・3 勝沼ワイナリークラブ

商品名	色	品種	甘辛度・タイプ	価格	会社名	備考
1 ブロケード ヌーヴェー甲州	白	甲州	辛口	¥1,300	勝沼葡萄園	
2 ハタモ 甲州 ヌーヴェー	白	甲州	辛口	¥1,300	中央葡萄園	
3 グレイス ワインテナーズ甲州2009	白	甲州	辛口	¥1,200	原茂ワイン	
4 2009 ルバイヤート新酒甲州 辛口	白	甲州	辛口	¥1,300	丸藤葡萄園工場	
5 ソルルケト 甲州 2009	白	甲州	辛口	¥1,200	山梨ワイン	
6 大和甲州新酒	白	甲州	辛口	¥1,600	大和葡萄園	
7 シトラスセント 甲州辛口 ヌーヴェー	白	甲州	辛口	¥1,500	音響葡萄園	
8 シャンテ甲州ヌーヴェー	白	甲州	やや辛口	¥1,200	グイアモンド酒造	
9 笛吹川流域の地ワイン新酒2009	白	甲州	やや辛口	¥1,100	スルシヤン	
10 ロリアン 新酒 甲州	白	甲州	やや辛口	¥1,300	白百合酒造	
11 グレイスワインテナーズ デラクェア 2009	白	デラクェア	やや甘口	¥1,300	中央葡萄園	
12 ハラモ デラクェア ヌーヴェー	白	デラクェア	甘口	¥1,300	原茂ワイン	
13 2009 ルバイヤート デラクェア	白	デラクェア	甘口	¥1,300	丸藤葡萄園工場	
14 新酒 ナイアガラ	白	ナイアガラ	極甘口	¥1,500	山梨ワイン	
15 大和スレーピング巨峰	ロゼ	巨峰	やや甘口	¥1,000	大和葡萄園	
16 シャンテ巨峰ヌーヴェー	ロゼ	巨峰	甘口	¥1,300	グイアモンド酒造	
17 ブロケード ヌーヴェー マスカット・ベリーA	赤	ベリーA	ライト	¥1,300	勝沼葡萄園	
18 ロリアン 新酒 ベリーA	赤	ベリーA	ライト	¥1,300	白百合酒造	
19 シャンテ マスカット・ベリーA ヌーヴェー	赤	ベリーA	ライト	¥1,200	グイアモンド酒造	
20 グレイスワインテナーズ マスカット・ベリーA 2009	赤	ベリーA	ライト	¥1,300	中央葡萄園	
21 酸化防止剤無添加 初しほり ベリーA	赤	ベリーA	ミディアム	¥1,200	音響葡萄園	出荷日に合わせず
22 2009 ルバイヤート新酒 マスカット・ベリーA	赤	ベリーA	ミディアム	¥1,300	丸藤葡萄園工場	
23 芋+苺畑の地ワイン 新酒2009	赤	ベリーA	やや辛口	¥1,100	スルシヤン	
24 ハラモ アジロン 2009	赤	アジロン	辛口	¥1,900	原茂ワイン	
25 酸化防止剤無添加 初しほり アジロン	赤	アジロン	やや辛口	¥1,500	音響葡萄園	
26 ロリアン 新酒アジロン	赤	アジロン	甘口	¥1,600	白百合酒造	
27 新酒 アジロン 甘口	赤	アジロン	甘口	¥1,700	山梨ワイン	

表1 ワインリスト

しておかなければならないのは、プロセスがイテレーティブであることだ。つまり、お昼までこのぶどうの丘で過ごした後、昼食をマンズワインに舞台を移してバーベキューをとるのである。マンズワインでもワイン祭りをやっている。つまり、ワイン祭りの”ハシゴ“になるわけである。当然体力維持、水分の補給などのリソース管理が重要になる。実はこれはちょっと間違えると、地獄を見る過酷なゲームなのであり、皆のリスク管理の技量が試されるのである。サケトラの副委員長は、”こんなイテレーションではないですよ、新規開発が二本立て続けにあるようなもんですよ“という感想をのべていた。かれは、赤をメインに攻めていく作戦に出た。行動開始である。私の好きなワインは赤、カベルネ・ソーヴィニヨンのフルボディが好きだが、まず赤から試してみますか。はたしてそのお味は？



周りの景色は秋一色。加文字先生曰く、“駅に降り立ったときからこの景色癒されましたよ”という言葉通り秋という季節を堪能できた。風もなくさわやかな天気。

成功である。



1. 日本のボージョレー

一言、なかなかいけるじゃんという感じであった。ボージョレーというと、若いワイン、まろやかさのない未成熟な味をイメージして、あまり期待していなかった。フルーティな赤、しまった味わいの辛口の白。これほど高い品質のものとは想像していなかった。下手な輸入ワインよりもうまい。皆も楽しんでた。小田部さん曰く、“白がよかったですよ。二本買ってしまいました”。皆、自分のペースで秋の味覚と周りののんびりした景色を味わっている。ワイン樽はちょうどバーのテーブルのようになった。そこに皆が持ち寄ったつまみを広げ談笑しながら楽しんだ。ボサソバをベースにした生演奏がいっそう雰囲気盛り上げる。ワインを注いでくれるメ



イドさんが花を添える。(小田部さんの激写を参照)

2. 2nd Iteration

お昼過ぎ、我々はワインの丘を後にし、タクシーでマンズワインに向かった。皆、お土産にワインを買っている。杉田さんが委員長に白を買った。

まずは腹ごしらえ、バーベキューをいただく。(写真参照)そして、マンズワインのテイスティングルームに向かった。



ここでは、“ただ”でワインがテイスティングできた。みなお土産を見ながら思い思いに味わっていた。そこにサケトラの副委員長が、これが飲みたいと指差したのが高級ワインの有料テイスティングである。“**貴腐ワイン**”。“お客さん今日はお祭りで外で行っています”と店の人が言ってくれたので、一同それに向かう。

3. 貴腐ワイン

それはそのテントで行っていた。グラス2杯で確か2500円。グラスを返すと1000円が戻るシステムだった。ちょっと高いが皆頼んだ。



二つのグラスに注がれた琥珀色の液体。少しとろりとした感触がある。ありがたく味わう最高級のデザートワイン。それは今までのワインのイメージとは異次元のものであった。フランスの王様はこういうものを飲んでいたのかしらんと思いはせながら味わったものである。



皆、写真の通り満足。杉田さんが、空いた貴腐ワインのボトルをもらってきた。(写真参照)中身があれば1本3万はするものだそうである。グラスを返すとサービスで樽から直接注いだワインを1杯もらえた。我々は際限なくワインを楽しんだ。向こうの舞台では、生バンドの演奏のあそばは、ワインのオークションをやっていた。



そうしている間にもう午後4時閉園。なんと朝からずっと飲んでいた夢の1日である。皆無事に酔っ払っている。タクシーを頼み塩山駅に移動そして解散。思い思いに電車に乗り込む。帰りの車窓から夕焼けをみる。茜色のグラデーションが山梨の山の黒いシルエットに鋭く切り取られているのをうっとり見ていた。



テストをサカナにワインモイイネ!

勉強会のモデレータをやってみよう!

書いた人:カセッチ

どうも、カセッチです。Vol.8 の「勉強会のモデレータをやってみよう! ~第2回」からずいぶん間があいてしまいましたが、今回は最終回「当日編」と題して、モデレータの経験談をご紹介しますと思います。

- [第1回 企画編](#)
- [第2回 準備編](#)

勉強会当日、モデレータ目線でお伝えできればと思います。これを読んでいただいた読者の方々が、「私も企画してみようかな」「あの勉強会に協力してみようかな」などと自分の行動に変えてくれることを強く強く願っています!!

もくじ

- 開始までのお仕事
- 勉強会スタート!
- 懇親会プラスα
- おまけ

■ 開始までのお仕事

勉強会当日、まずは参加者全員へリマインダーメールを送付します。リマインダーメールの第一の目的は「当日ですよ～」というアナウンスです。その他には、モデレータ自身もそうですが、勉強会当日に急きよ業務都合で参加できなくなってしまう場合があります。そういった方々へのフォローをする意味も含んでいます。モデレータの連絡先(携帯番号や携帯から確認可能なメールアドレス)を明記して、当日のお昼少し前に送信するとういでしょう。



当然ですが、モデレータ自身がトラブル(業務都合、病気など)で参加できなくなる場合もあります。講師役は万一の場合に備えて、代役が務められるようにしておこう!

さあ、会場に着いたら勉強会の最終準備です。

モデレータのあきやまさんとミッキーさんは、ほとんどがメーリングリストでのやりとり。勉強会の前にすこしだけ打ち合わせをします。今回は講師役のミッキーさん、解説役のあきやまさんという豪華な講師陣。僕は受付や挨拶、集金などの事務的なことを担当しました。モデレータが複数いるときは分担をしっかりとっておいたほうがいいですね。

■ 勉強会スタート!

さて、勉強会のモデレータをするとき、いつも心がけていることがあります。

- ☑ 参加者のやる気を引き出そう
- ☑ 参加者の気持ちになろう
- ☑ もちろん自分も学び、楽しもう

(1) 参加者のやる気を引き出そう

勉強会に参加していただくからには、より多くのことを得てもらいたいです。教材を工夫して、議論が生まれやすくなり、聞いてばかりでは飽きてしまうのでなるべく手を動かすような進め方をするなど。講師のミッキーさんは社内勉強会の経験が豊富で、そういったうまさがとても印象的! 参加者に声をかけたり、解説役のあきやまさんとのかけあいはすごくワクワクさせるものでしたね。



WACATE でもそういった「しかけ」がたくさん用意されてるんです^^

(2) 参加者の気持ちになろう

教材を作るときは当然、参加者の気持ちになって資料を作ります。でも、なかなか思ったようにはいかないものです。当日、参加者が演習問題を解くために、デジジョンテーブルが書きやすくて解答用紙を用意しました。しかし、いざ演習問題の時間になってもみなさんその解答用紙は使ってくれませんでした。なんでだろうと思って、あとで聞いてみると、実はみなさん「何かの資料?」と勘違いしていたのです。

振り返ってみると、受付の時に解答用紙を配るときに一言、

「演習問題の解答用紙として使ってください」

という声掛けがあればもしかしたら、うまくいったのかもしれない。



でも、このときは失敗しても次からは改善することができます!

(3) もちろん、自分も学び、楽しもう

モデレータは、事前準備・勉強会の運営など、もともと学ぶところが多い役回りですが、当日はもう一つ学ぶチャンスがあります。それは、参加者が演習問題に取り組んでいる時です。自分では思いつかないアプローチや疑問点を見つけることができ、自分が深く悩まなかったところで悩む参加者の姿を見つけることができます。これは単に経験の差の場合もありますが、

実は自明だと見落としていた何か大切なことがあるのかもしれないのです。

そして、勉強会が成功して、参加者の満足げな顔を見ることも「楽しみ」ポイントです。が、参加者が後日どこかのコミュニティやブログに感想を書いたり、さらに勉強を進めてたりするのは、さらなる「楽しみ」ポイントなのです！！

自分がテスト技法を学ぶ上でいろいろな方からアドバイスをいただきました。それを今度は、まだ勉強している人や会社の後輩に「おすそ分け」するのは当然だと考えていますし、それを参加者にも実践してほしいと思っています。(そういう呼びかけもします)

そういう「連鎖」って、すごいと思いませんか？



こういった心がけは、何度も勉強会に携わっていく中で先輩方や同世代のモチベーションの高い仲間から教わりました！ 謝謝

■ 懇親会プラスα

さて、参加者が頭脳をフル回転したあとは、楽しい楽しい懇親会。僕はお酒が得意ではないので、ソフトドリンクを持って、参加者を質問攻め！

「今日は難しかったですか？」
「事前勉強ってどんなことをしました？」
「楽しめました？」
「他に興味のあるテーマってありますか？」

などなど。

シリーズものの勉強会でも、単発の勉強会でも、こういった懇親会の場でヒアリングするって大切です。コミュニケーションをとることも、課題を見つけることもできます。そして、仲間も増えます。質問をしてみて、「この人！」って感じた人に次の勉強会の企画を持ちかけるのも面白いかもしれません。

WACATE 実行委員をやっていて、いつも「損だなあ」と思うことがあって、それは「ワークショップ真っ最中は黒子」ということ。面白い議論がされていても、参加するわけにもいきません～でも、それを補うだけ「お得」なんですよ。それは、「話しかけやすい、話しかけられやすい」ことです。

人見知りのあなた、

ぜひモデレータ、やってみませんか？

モデレータをやってみようかなと思ったあなた！ 1冊の本をご紹介します。

[裏方ほどおいしい仕事はない！](#)

■ おまけ

最後におまけです。

[WACATE2009 冬](#) では「[テスト技法の基礎の基礎 ～同値分析・境界値分析～](#)」というテスト技法セッションを加文字さん、奥村さんとともに担当しています。もし、この記事を読んで勉強会のモデレータに興味をもたれた参加者の方は、終わった後声かけてくださいね！

ちなみに参考書籍は以下の3冊です。

[ソフトウェア品質知識体系ガイド—SQuBOK Guide](#)
[SQuBOK 策定部会](#)

[ソフトウェア・テストの技法 第2版](#)

[知識ゼロから学ぶ ソフトウェアテスト](#)

参加される方はみっちり読んでください！ 参加されない方もせつかなので読んでみて、復習してみてください！

さらにおまけ(宣伝?)。

2010年も勉強会を企画します。 時期は2月ぐらいになると思います。もし、みなさんのもとに「勉強会のお知らせ」の報が届きましたら、ぜひ参加してみてください！！

[それでは、勉強会でお会いしましょう](#)

もうひとつのWACATE Software Testing ManiaX!! プレゼント当選発表!

WACATE-Magazine009号にて実施した読者プレゼント企画を憶えていらっしゃるでしょうか?
なんとWACATE-Magazine読者プレゼント当選者ペンネーム”みなみさおり”さんよりSoftware Testing ManiaX vol.1の感想をいただきました!
テストの本音が随所に書かれていて、すばらしい内容でした。

これは、夢の本ですね。

どれもすばらしいのですが、印象に残ったのは、にしさん、あきやまさん、ミッキー鈴木さんのコンサルタントの話。
いいですね。実際にありえる話です。

私もテストが大好きなのですが、何故好きなのかこの本を読んでからよくわかりました。

私は、野球少年で、ポジションはキャッチャーでした。中学では、キャプテンで練習内容も自分勝手に決めてました。中学時代は、ゲーム好き。

高校、大学は陸上競技部
負けず嫌い。話しが大好き。
新聞の間違い捜しが大好きでした。
ちなみに、大学の専攻は応用数学科でした。

なるほど、計測も好きだし、仕切るのも好き。
状況に応じて、作戦変更するのが好きです。
これって、すべてテストに繋がる。

なるほどなー。
テストが好きじゃなくて、テストが好きになる性格だったので
す。
テストは、私の天職だと思いました。

実はここ三年ほど、今では全くテストしていないのです。いまだにテストしたいと思うのは、なぜなんだろうと不思議に思ってた謎がこの本を読んでとけました。

本当に、ありがとうございました。

WACATEの皆さんの活躍に期待しております。

追伸

この本は、世の中のテスト関係者全員に読んで欲しいと思いました。

…みなみさおりさん、本当に有難うございました♪
そしてご当選、おめでとうございました♪

たくさん喜んでいただけて、とても嬉しく思います!

みなみさおりさんも大絶賛の「Software Testing ManiaX」ですが…

Software Testing ManiaX Vol.2!

鋭意制作中です!!

今回も超★豪華執筆陣でお送りする予定です!
リリース: コミックマーケット 77
12/31(木) 10:00~16:00 西よ-28b

ご好評だったVol.1も新装版を持っていきます。

いやまさかあんな方までがご寄稿くださるとは…!

Vol.2もマジパネェっすよ。
表紙イメージはこんなカンジですっ★

心して待て!!



ワカテにきく

第12回：【仕事を好きになろう！】 ☆ALOHA☆



WACATE Magazine 読者のみなさん、こんにちわ！

風間さんよりバトンを受け取り、この度、若手コラムを書かせていただくことになりました。

みなさんは、仕事が好きですか？

私は、時々大好きだったり、ちょっと好きだったり、よく嫌いになりかけたり(?)しますが、基本的に仕事が好きです。テスト項目の嵐に襲われ、バグの渦に巻き込まれ、視界不良で先行き不安だらけであっても、なんだかんだでやっぱり好きです。

みなさんは、どうでしょうか？

身近にいる人に、「仕事が好きですか？」と質問してみました。

すると、いろんな答えをいただきましたが、「あんまり。」とか、「好きなわけないやん！」との返事もありました。仕事って、毎日のことなのに、それを好きじゃない、楽しくないって、残念な話だと思いませんか？

最初の方に『仕事好きです』宣言をした私ですが、最初からそうだったわけでもないんです。

言うならば、ただ単に**きっかけをうまく見つけられただけ**のことだと思います。

私は、自分がテストすることが一番好きなのですが、初めてテストをした時、あんまり面白くないなあ~と思いました。それでも、仕事なので、やるべきことはやってましたが、なかなか楽しさを見出すことは出来ませんでした。でも、ある時、そのあまり興味が惹かれないテストの中で、**興味が持てるテストの1つに出会ったんです。**

当時、私は、複合機メーカーに勤めていたのですが、複合機はモデル毎に1分間に何枚印刷できるかの規格があり、私が面白いと思ったテストは、**ストップウォッチを片手に、1分間に印刷できる枚数が規格をみたくしているかを計測するテスト**でした。

例えば、20枚機だと、1分間にA4サイズの用紙に20枚印刷できるとPASSで、印刷できないとFAILというテストです。19枚しか印刷できなければ、もちろんFAILですし、21枚印刷できてもFAILになります。

A4サイズ20枚の印刷と言っても、テストケースは、1つではありません。

その時のチェックシートには、テストケースが2つ書かれていたのですが、①原稿1枚×20部の印刷 ②原稿20枚×1部でした。この2つ、同じじゃないの？と思う方もおられたら、別ものでしょ？と思われる方もおられると思います。

この2つのパターン、仕様書に記載されている値が違っていたので、別ものなのだと分かりましたが、**テスト初心者**の私には、**何がどう違うのかが分かりませんでした。**そこで、自分なりにいろいろと調べてみたのですが、分からなかったので、開発の人に聞いてみたら、図にして詳しく説明してもらえ、理解ができました。

その時、テストケースの意味を理解した上でテストすると、めっちゃ面白いということに気がきました。考えてみれば、当たり前のことですが、仕事に関係なく、人間関係とかでも相手を知らずとしないと、理解できないと思いますが、極端な話、テストケース1つ書くにしても**テスト対象物の仕組みや、背景を知り理解しているの**と**知らないのでは、まったく違う**んですね。

また、同じ仕事をしていても、有意義な時間を過ごせている感が感じられるようになり、今思い返せば、そこ辺りから、毎日が楽しくなってきたような気がします。これが、私が仕事を好きになっていったきっかけの1つです。

きっかけって人それぞれちがうと思います。

例えば、自分が見つけた不具合が修正されたことにやりがいを感じる人、狙いを定めて書いたテストケースで不具合を見つけたら嬉しい人、自分がテストした商品を街中で見かけたら楽しい気分になる人など、さまざまですね。

でも、**きっかけを見つけるのって、そんなに難しいことではない**のではないのでしょうか。

自分が楽しいと思うことや、嬉しい、面白いと感じることをたどっていくと自然と見つけられると思います。

もし、読者の方や、読者の周りの方に『**仕事が好きじゃない。**』『**仕事を楽しいめない。**』って方がおられたら、1つでもいいから、**自分の楽しい、嬉しいをおススメしてみてください。**

そして、仕事(テスト)好き人口を増やして行きましょう！

つたない文章でしたが、読んでいただいてありがとうございました。

Software Test Topics

当番：上田 卓由 (Magazine 編集部)

こんにちは、上田です～♪

とうとう WACATE2009 冬の開催まで 2 週間を切りましたねっ！o(≧▽≦)

ソフトウェアテストの締めくくりにという感じで大いに盛り上がっていきましょ～♪

それでは、今月もお役立ち情報をお伝えしていきます！！

【書籍】演習で学ぶソフトウェアメトリクスの基礎 ソフトウェアの測定と見積りへの正しい作法

著者：リンダ・M・ライルド、M・キャロル・ブレナン

翻訳：野中 誠、鷲崎 弘宜

出版社：日経BP社

発売日：2009年11月19日

形態：単行本(ソフトカバー)

価格：2,940円(税込み)

【書籍】実践アジャイルテスト テスターとアジャイルチームのための実践ガイド

著者：Janet Gregory、Lisa Crispin

翻訳：榊原 彰、増田 聡、山腰 直樹、石橋 正章

監修：榊原 彰

出版社：翔泳社

発売日：2009年11月28日

形態：大型本

価格：5,040円(税込み)

【書籍】ISTQB テスト技術者資格試験制度 Advanced Level シラバス日本語版 Version 2007.J01

作成：International Software Testing Qualifications Board

翻訳：Japan Software Testing Qualifications Board

形態：PDF ファイル

バージョン0.5.3から2007.J01 (バージョンアップです！！)

【書籍】ISTQB テスト技術者資格試験制度 Foundation Level シラバス日本語版 Version 2007.J01

作成：International Software Testing Qualifications Board

翻訳：Japan Software Testing Qualifications Board

形態：PDF ファイル

バージョン1.1.0から2007.J01 (バージョンアップです！！)

【書籍】ソフトウェアテスト標準用語集 日本語 Version 2.0.J01

作成：International Software Testing Qualifications Board 用語集作業班

編集者：Erik van Veenendaal (オランダ)

翻訳：Japan Software Testing Qualifications Board 技術委員会

形態：PDF ファイル

バージョン2.0から2.0.J01 (バージョンアップです！！)

【資格】JSTQB 認定テスト技術者資格 第8回 Foundation Level 試験

開催日：2010年2月13日(土)

開催地域：北海道、東京、大阪、愛知、福岡、大分、沖縄

試験料：21,000円(税込み)

申込受付期間：2009年11月25日15時～2009年12月24日15時

申込取り消し受付：2010年1月7日15時まで

FoundationLevelの試験受付開始です！！

(アドンスレベルの試験要項の詳細公開は11月中旬ということなので、公開が楽しみです！！)

【資格】品質管理検定(QC 検定)

開催日：2010年3月21日(日)

申込受付期間：2009年12月14日(月)～2010年1月27日(水)

受験料(税込み)：1級 8,000円、2級 5,000円、3級 4,000円、4級 3,000円、1級2級併願 12,000円、2級3級併願 8,000円、3級4級併願 6,000円

【イベント】JaSST'10 Tokyo

<http://www.jasst.jp/archives/jasst10e.html>

開催日：2010年1月28日(木)～29日(金)

会場：目黒雅楽園(東京、目黒)

基調講演：Johanna Rothman

2010年最初のJaSSTです！！！！

このコーナーでは、書籍やイベントの情報を募集しています。

例えば、「来月勉強会とか OFF 会とか開催するんだけど掲載してくんない？」といったものでもOKです。

開催地も、日本全国津々浦々、どこでもかまいません。

情報をお待ちしております m(_ _)m

WACATE Short Short vol.9

～WACATE 2009 冬 前夜祭～

前回は引き続き三浦海岸が会場ということで、前泊を考えていらっしゃる方もいるのではないのでしょうか。せっかく同じホテルに泊まるなら一足先に交流したい、と思いませんか？そこで、前夜祭を開催します！お酒を飲みながら、WACATE 参加者同士、一足先に交流しましょう。初めてのの方は、WACATE 経験者にこっそりコツや様子を聞いておくのもアリかも？！

このイベントでは、申し込み＝前泊となり、前泊分のホテル予約はお世話係が一括で行います。また、宴会の飲み物やおつまみは、お世話係にて準備致します。（「飲み会」の準備となりますので、夕食は各自済ませてきてください）宿泊代と宴会代ともに、当日精算でお願いします。

<<概要>>

日 時：2009年12月11日（金） WACATE 2009 冬前日

当日の内容は、下部に記載しております。

場 所：マホロバ・マインズ三浦（WACATE 2009 冬と同じ）

参加費：宴会代、宿泊費、朝食費込みで、計8,000円程度

その他、交通費等、参加者各自で支払い。

申し込み時期：11月28日（土）13:00:00～12月3日（木）12:59:59まで

申し込み方法：以下サイトの「お申込」から、必要事項をご登録下さい。

予約の都合上、お申し込み後のキャンセルは不可ですので、ご了承下さい。

詳細は別途 WACATE 2009 冬お申込のみなさまへ送らせて頂いたメール、

及び WACATE SNS でも報知しております。

<http://kokucheese.com/event/index/797/>

<<当日の内容（予定）>>

20:30 ～ 20:40 ホテルロビー集合、部屋割り発表、チェックイン

20:40 ～ 21:30 休憩・温泉タイム

21:30 ～ 23:00 前夜祭（内容は鋭意企画中！）

部屋割り等は当日発表、前夜祭会場は当日の宿泊部屋のひとつに集合。

<<WACATE Short Short vol.09 お世話係>>

お世話係

すすきしょうご（幹事）、近江久美子、中野さやか

アドバイザー

川西俊之、坂静香（WACATE 実行委員会）

※詳細につきましては、別途 WACATE2009 冬お申込のみなさまへ送らせて頂いたメール、及び WACATE SNS をご覧ください。

WACATE Short Short vol.10

～熱い2日間を打ち上げよう！ WACATE2009 冬 後夜祭～

前夜祭やるんなら、後夜祭もアリじゃない！？
そんな単純な動機から、今回も後夜祭をやりますよお！！

WACATEに参加すると、その中で得たことや感じたことや思いが、
たった2日間だけでは、話足りないはず。
今年のWACATEの本当の最後の締めめに、参加者でワークショップやテスト話を
楽しく振り返りましょう。仲間が増えることは間違いありません！

- | | |
|----------|---|
| ☆日 時☆ | 2009年12月13日(日) 18:00～ |
| ☆会 場☆ | 横浜駅近辺のお店 |
| ☆参加費☆ | 当日参加者による割勘(5000円以下の予定) |
| ☆参加資格☆ | ・WACATE2009冬の参加者
・WACATEファン、
またはこれからWACATEファンになろうと考えている方
・このファンイベントを全力で楽しもうと考える方。
・ドタキャンされない方。 |
| ☆申し込み方法☆ | こちら↓で申し込みしてください。
http://kokucheese.com/event/index/801/ |
| ☆申し込み期限☆ | 12月4日 23:59:59 まで |
| ☆お世話係☆ | 川寄仁美(幹事)、杉田正実、永田敦、渡辺由希子 |
| ☆アドバイザー☆ | 川西俊之、坂静香(WACATE実行委員会) |

※ 詳細につきましては、別途WACATE2009冬お申込のみなさまへ送らせて頂くメール、
及びWACATE SNSをご覧ください。



池田暁の

ミュージカルに恋して。

【第十二幕】—縮小運転です—

♪諸事情あり、縮小運転です

ページを開いてお気づきかと思いますが、今月号に関しては当コーナーは縮小運転とっています。実は11月は二週間弱ほど私事（まあ、なんといいですか、入院です）で動きが取れない状況で、その前後もあれこれと準備が忙しく、結局ほぼ一ヶ月ほどは劇場に足を運ぶことができませんでした。この原稿を書いているのはレ・ミゼラブルの千種楽が終わったあとですが、非常に楽しみにしていただけに不完全燃焼の気分です。（T-T

♪入院中の心のよりどころ

入院された経験をお持ちの方はわかるかと思いますが、入院中はとにかく暇です。私の場合は喉の調子が悪いとはいえ四肢に関しては満足でしたからなおさらです。点滴も手術の翌日までしかつけていませんでした。病院の朝は早いです。朝6時に起床し、21時に就寝というスケジュール。朝の検診と定期的な検温と食事の他は各自自由にということなのですが、実に12時間ほどはやることはありません。しかも身の回りに知り合いなどいませんから、雑談をすることもできません。

そんな時にこころのよりどころだったのはミュージカル関係の雑誌です。しっかりと病室にはシアターガイドと月刊ミュージカルを持ち込み、それを何度も読み返していました。記事の内容からあれこれと舞台上を想像して時間をつぶしていたというわけです。もっとも、もし私がお金持ちで個室に入ることさえ出来たなら、それこそDVDを大量に持ち込んでいくらでも時間をつぶせただろうになぁと思いますが、ともあれ少しの心のよりどころになっていたことは事実です。その他、最低限の電子機器は使うことが出来たので、ウォークマンでミュージカルの楽曲を聴いてました。

こうしてなんだかんだで時間をつぶすことは出来たものの、どんどん劇場に行きたくなってしまい、それはそれでストレスになってしまったかもしれません。

病気になるると劇場にも足を運べなくなります。健康第一だなと身にしみて感じた入院騒動だったのであります。

♪初オペラ！

そんなこんなの一ヶ月だったのですが、ミュージカルにはまって以来ずっと行きたいと思っていたオペラにとうとうデビューすることが出来ました。演目はモーツァルトの「魔笛」です。

オペラはクラシックの一ジャンルであるので、歌い手に求められるのは演技力でもダンス力でも華でもなく、正確に楽譜を再現することです。そういった意味で、クラシックそのものになじみがない場合は結構キツイのかなぁとの感想を持ちました。また、言語の壁も大きいですね。英語はともかくドイツ語を理解できる人はなかなかいないと思いますので、それも敷居を高くしています。もっとも、舞台の両側に電光掲示板で日本語訳が表示されるので、フォローはされているのですが、基本的に素人向けのものとなっていないため落ち着かない感じがあったことも確かですな。

よく「オペラファンがもっと増えれば良いのに」という声をオペラファンから聞きますが、そうであれば、もっと素人が入ってきやすい取り組みが必要ですし、ファンも暖かく迎える度量を持つと言うことが必要なのではないかなと感じました。まあ元が王侯貴族のたしなみですから、そういった意味では伝統なのでしょうが…

とはいっても、それはミュージカルファンという立場にたっているからそう見えるのであって、オペラはオペラのいいところから

たくさんあるはずですよ。それを多少でも理解できるように、何回か足を運んでみたいと思っています。

♪2009年11月の観劇記♪

残念ながらミュージカルは見に行くことが出来ませんでした。冒頭に書いたオペラに足を運びましたが、それを語るにはあまりにも経験が足りていませんので、今回はお休みとしたいと思います。

♪2009年12月のキニナル演目♪

12月のキニナル演目は

「パイレート・クイーン」、「シェルアールの雨傘」

★パイレート・クイーン

<http://www.tohostage.com/piratequeen/>

帝国劇場、2009/11/28(土)～2009/12/25(金)。

出演：保坂和寿、山口祐一郎、涼風真世、今井清隆、石川禅、宮川浩。

本作はとにかくプリンシパルの豪華さが印象的です。保坂・山口コンビがどのような色合いを出してくれるがとても楽しみです。また、アラン・アープリルとクロード＝ミッシェル・シェンベルクといえばレ・ミゼラブルとミス・サイゴンのコンビであり、そういった意味でも楽しみなミュージカルです。おそらく今年の年末はこの演目がミュージカル納めになるのではないかと思います。

★シェルアールの雨傘

<http://www.tohostage.com/cherbourg/>

出演：井上芳雄、白羽ゆり、ANZA、出雲綾、岸田敏志、香寿たつき。

題目を聞いてピンと来た方も多いのではないでしょうか。1964年に公開されたフランスの同名映画をミュージカル化したものとなります。もちろん原作映画も好きなのですが、キャスト陣も良い感じですね。特に楽しみにしているのは岸田敏志さん。ミス・サイゴンの繊細な歌声が印象に残っています。演出が謝珠栄というところも見逃せません。

♪終わりに♪

11月は以前から崩していた体調を何とかすべく、入院という手段をとりましたが、健康第一をしみじみ、楽しみにしていた「フロスト/ニクソン」、「ヘンリー6世」、「グレイ・ガーデンズ」、「レ・ミゼラブル」には足を運べませんでした。特にグレイ・ガーデンズはミーハーですが、彩乃かなみ見たさに楽しみにしていたので残念でした。

12月は「パイレート・クイーン」、「シェルアールの雨傘」はチケットを確保済み。「ANJIN」も見に行きたい。そして女優陣が豪華すぎる「Nine The Musical」はなんとか足を運びたいと考えています。

あと、ミュージカルではありませんが、毎年恒例の谷村有美さんのクリスマスコンサートに行きます。実はこれが一番楽しみなのかもしれません。

昨年のミュージカル納めはラ・カージュ・オ・フォールでしたが、あれからもう一年ですか。月日の流れの速さをしみじみと感じています。

WACATE-Blog出張所

こんにちは。原です。WACATE2009 夏にお会いした方はお久しぶりです！このたび縁あって実行委員に加えて頂きました。前々号の川西さん、前号のKENさんに続き、3人目の新入り実行委員として、ちょいどご挨拶がてら徒然綴ります。

■WACATE を知ったきっかけ

WACATE ファンの皆さまの前でこうってしまうのは申し訳ないのですが、WACATE を知ったのは半年くらい前のことです。前回のWACATE2009 夏のクロージングセッションに私の上司が登壇する話が最初でした。

「どうも、同年代のテストエンジニアが年2回、土日にごぞって集まって勉強会をやっているらしい」と。

テスト界隈のビッグイベントと言えばJaSST。私も毎年参加しているので（年々滞在時間が短縮傾向にあるのは置いといて）、テスト界隈の勢いは実感していたところでしたが、そういうのもやってるんだーと。

これまで、エンジニアとしての世界は自分の会社どまりでした。

でもよくよく考えてみると、

それって**井の中のカワズちゃん**なんじゃないかと。外を知らないなど。

今まで通り、知らないままでいることも選択肢の一つですが、そこにあるって知ったら人間知りたいたいものじゃないですか。

そして、ちょうどよいタイミングでWACATEに上司が登壇するらしい。

「手伝う？」という上司の一言に、それなら、**いっちょ他流試合してみるか！**と一念発起。

そんなこんなでWACATE2009 夏はセッションのお手伝いとして参加させて頂いたのです。

■で、参加してみてどうだったかという？

ちょっと遅れて会場に入ったのですが、セッション会場で最初にご挨拶したのが、**水泳部のコーチモードのあだち部長**。インパクトあったなあ。。。でも何よりも夏は60人の参加者が一斉にレビューに取り組む姿に圧倒されました。

だって、レビューって普段は少人数でやりますよね。

そして、ふと全体を見渡したときに、外に広がるのどかな景色と会場の熱気のコントラストに、**「なんてアツい人たち。こりゃすごいや」**と。

実を言うと、「やってみ」ってセッション資料を渡されたときは焦りましたけどね〜。

インスペクター歴6年半ですが、ここ3年ばかりは9割方ソースコードを相手にしているので、あの短時間の間に勤が戻るか正直かなり焦っていたのはナイショ。

■ここからが急展開なのですよ（笑）

WACATE2009 夏も終わり、里帰りついでにお邪魔したJaSST' 09 北海道も終わって、10月後半のソフトウェアテストセミナーを見に行ったときのこと。

池田さん、小山さん、私の上司の話の総合すると、

「WACATE2009 冬のセッションやって〜」

「お題はメトリクス」

「メトリクスがテーマなら、**原**で。」

ざっとこんな感じで、WACATE2009 冬への登壇がその場で決まったのです。

展開早くね？

今思えば、あの日は1つのターニングポイントだったかもしれません。

■実行委員になってみてどうよ。

週末の実行委員会に顔を出していますが、ホントみんなよく働きます。WACATE 愛っていうのかなあ。

本業がありながら、着々とそれぞれのタスクをこなしつつ、助け合いも普通にあって。

WACATE をよりよいものにしよう、という思いを間近で感じます。

セッションの用意だけでいっぱいいっぱいになっている私はまだまだヒヨッコです。

■そんなこんなでセッションやります

私が担当するセッションは2日目の午前。「メトリクスのWhyを考えよう」です。

既に参加者向けのページに書きましたので、ここではそう語りませんが、みんな楽しい時間にしたと思っています。**みなさんも力を貸してくださいね☆**

というわけで、思うままに綴ってみました。

今後ともよろしくお願い致しますm(_ _)m

書いた人：はら

開運

源太郎の ソフトウェアテスト占い

※「ソフトウェアテスト占い」とは…

日本の伝統的な暦で知られる気学(九気性)をもとに、日本古来の統計学とソフトウェアテストで培った時代の統計学を組み合わせ考察された占いである！(笑)

	生まれ年	12月の運勢
一白水星	S38/S47/S56/H2	自然に幸福を享ける月にて一山越えて広い広野に出た如く、気も伸々としてこれは皆自分の領野の如き気持ちにて、漸次運に向う比較的落ち着いた時なり、分外の望みや空想に駆られず万事奮闘努力せば次第に発達す、本年最後の悔いなき努力せよ！！
二黒土星	S37/S46/S55/H1	本命中宮星と土剋木と相剋し運氣殺伐の月、気張り諸事意の如くならず物事半途にて破る如く軽率なれば再起画策なき困難に陥ることあり才智にまかせ事を謀るべからず無鉄砲を積みよく長上の意に従い細心の注意を払うべし。
三碧木星	S36/S45/S54/S63	中宮星と比和中運にて平穩の月、欺かん時は概して倦怠情気の生じ易く、物事渋滞避延になりがちである、所謂平穩は積極性に欠けると云う事である、欺かる時は色情のため他人との交際上に於て問題を起し、又幸運の端緒を逸することになる。
四緑木星	S35/S44/S53/S62	本命星中宮に入りて俗に言う八方塞りの衰運月、万事変動する月にて平穩無事とは云い難い、人の為め出費心身の疲労も多く、万端意志の如く運ばず動揺して種々悩みの問題力顕る、何事も身を慎みよく熟慮し、独断なし難き時は長上と相談して事を運ぶべし。
五黄土星	S34/S43/S52/S61	中宮星と相冠甚だ衰運の月万事意の如くなり難き衰運の月である、物事変動多く、心の迷いを生じ諸事行違渋滞多く大いに慎み努力する時は漸次開運に向うべき象あり、冷静に沈着に決して軽挙盲動すべからずよくよく注意し正道を守り不撓不屈の精神にて進め。
六白金星	S33/S42/S51/S60	本命星中宮星を剋し衰運なるも、西の定位比和にあり、凶といえども軽し、故に焦らず、基礎を固め他に心を移さず本業に実直に多少妨げありといえども気にせず、非常識にならぬ様、心掛ければ開運に進む。
七赤金星	S32/S41/S50/S59	本命星中宮星を剋し甚だ衰運の月、自分の事又他人の事で憂苦絶えぬ、敢然としてこの難局を突破するための辛苦に耐え新年を迎え新規時き直しを策せよ人生には苦あれば楽ある浮きつ沈みつ世の常又楽しき事あらん。
八白土星	S31/S40/S49/S58	本命星中宮を剋し運氣頗る不振にして、諸願成就する如く見えて一步禍れば災を招き物事中途にて破る兆あり、我意を張らず、独断専行を避け家庭内に紛争の起らぬ様すべて目上と相談し進退すべし生死衰枯自然の節理新春を迎え新規時直しを忘れぬ様。
九紫火星	S30/S39/S48/S57	本年最後の盛運に会し、発展意の如く、相当苦勞しても辛捧甲斐のある月なり、然し本命星の巡る北とは相剋にて物事成就するかに見えて成らぬ状態のこともあるが敢て苦にすることなく、焦らず今一息押して進め然し危険と知り乍近寄ることはない注意肝要。

月盤 四緑木星				年盤 九紫火星			
南				南			
暗剣殺				暗剣殺			
東	3	8	1	西	8	4	6
	2	4	6		7	9	2
	7	9	5		3	5	1
北				北			
五黄殺				五黄殺			

お知らせ

12月31日(木)にWACATE-Magazine vol.13 発行します!(たぶん)

次号の特集は「WACATE 2009 冬 Report!」を予定しています★

来たれ! 投稿戦士!

WACATE-Magazine では“ソフトウェアテストや品質に関する記事”を常に募集中です。

来たれ! 投・稿・戦・士!!!

WACATE-Magazine はボランティアベースで発行されています。したがって原稿料は出ません。※ノーギャラです。

投稿いただいた原稿の掲載可否、掲載時期については編集部で決定させていただきます。

特定の商用ツールやサポートなど営利色が強い原稿は原則として掲載いたしません。

レイアウトなどは全て編集部で行います。また、特に戻り確認などは行いません。

単なる論文は掲載しません。紙面の雰囲気を読んだ、イイ感じな文体や内容でお願いします。

公序良俗に反すると思われるものについても掲載しません。

以上を了解した上で、覚悟完了! の方はWACATE-Magazine 編集部「magazine@wacate.jp」まで、是非ご連絡ください。

折り返し、担当より要綱をご連絡いたします。

楽しい、そして役に立つ紙面にするため、是非協力いただければ幸いです♪

☆その他、WACATE-Magazine では以下の情報をお待ちしています☆

- 書籍情報(オススメ書籍情報も可)
- イベント情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
- 勉強会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
- オフ会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
- デザート情報(甘いものならなんでも。イカス! やつで。)

などなど、お待ちしております♪

来たれ
次世代の
戦士達よ!!!

WACATE実行委員募集中♪

WACATE
Workshop for Accelerating Capable Testing Engineers

編集後記

★★★ WACATE 実行委員募集中 ★★★

いいんちょ★いよいよWACATE 2009 冬開催! 全力で楽しむぞ〜(〜)
ぶくいんちょ★もういくつ寝るとWACATE だね〜♪(〜)キッ
ヨエだ★コ WACATE 2009 冬!! 大いに盛り上がっていきましょー黨
あてバ★今年もスキーシーズンが始まりました。準指導員検定の合格目指します!
コヤマン★WACATE 2009 冬が来るぞー! Software Testing ManiaX も来るぞー! †
はれいびん★今年も風邪ひかないようにがんばりまあす☆
あらかみ★年末進行&忘年会シーズンですので、皆さん無理しないで下さいね♪健康第一!

★おくづい★

2009/12/2(wed)はっこ
WACATE-Magazine へんしゅヨズ

✉Magazine@wacate.jp
<http://wacate.jp/Magazine/>